

(様式5)

公共事業事後評価調書

番 号	教育-4	事業担当局課	教育委員会事務局学校計画課 教育施設課	
事業名	市場小学校けやき分校整備事業 (旧 市場小学校第二方面校 (仮称) 整備事業)		完了年度	令和元年度
施工場所	鶴見区元宮二丁目5番		経過年数	4年
目的及び 事業概要	1 目的 市場小学校(鶴見区)の児童急増に伴う教室不足の解消を図るため、10年間の暫定期間とする小学校(市場小学校けやき分校)を整備しました。 2 事業概要 市場小学校は、通学区域内において工場跡地等への住戸開発、大規模マンションの建設が続いたことなどにより、児童数が急速に増加していたため、事前評価実施年度である平成27年度の5年後(令和2年度)には教室不足が見込まれる状況にありました。 関係区局からなるプロジェクトにおいて検討した結果、適切な民有地がないことや、未利用の市有地が他にないことから、元宮ポンプ所敷地の下水道事業用地の一部を占用し、10年間の暫定期間とする小学校を整備しました。 現在、1～4年生の児童は本校、5～6年生の児童は分校を使用しています。 【けやき分校 整備概要】 ・工事期間 : 平成30年10月～令和2年3月 ・開 校 : 令和2年4月 ・敷地面積 : 8,416.55 m² (学校 4,592.95 m² + グラウンド 3,823.6 m²) ・延床面積 : 7,695.32 m² ※学校施設のみ ・構 造 : 鉄骨造 ・規 模 : 地上5階建て ・整備諸室 普通教室:20CR 個別支援教室:3CR その他:職員室、音楽室等の特別教室や体育館、プール、給食室等 参考 【市場小学校本校の施設概要】 ・校地面積:15,194 m² ・普通教室:最大 46CR ・個別支援教室:4CR ・その他:音楽室等の特別教室や体育館、プール、給食室等			

事業の効果
の発現状況
(費用便益分
析等)

1 教室不足の解消

(1) 事前評価時点

市場小学校の教室を内部改修等で最大まで増やしたとしても、最大 46 教室であり、事前評価時点の(H27 年度推計)において、令和 2 年度(平成 32 年度)から教室不足になることが見込まれていたため、新たに、市場小学校けやき分校を 10 年間の暫定小学校として整備する計画としました。

□事前評価時の推計値(最大使用可能教室:46CR)

新設校
開校

市場小	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
児童数	946	1,073	1,226	1,428	1,573	1712	1,800
学級数	29	32	35	40	44	48	50

※平成 27 年度義務教育人口推計表より引用

※一般保有教室:46CR のため、新設校設置までは、内部改修により対応

(2) 事後評価時点(R6) における効果の発現状況

検討当初の推計値よりも実際の児童数は小さく推移している状況です。

教室不足への対応が主な目的でしたが、現在は急激に需要が増加している個別支援学級の児童への必要な教室数の確保に対応するために、整備した教室を有効に活用できています。また、児童数の急増による必要な給食数の増加での設備不足など、教育上必要な設備の不足についても、暫定小学校を新規に整備したことによって解決しました。

□実数値 (各年 5 月 1 日時点の一般教室の実数値)

新設校
開校

市場小	H27	H28	H29	H30	R 元	R2	R3	R4	R5	R6
児童数	952	1,030	1,161	1,307	1,383	1,066	1,064	994	931	845
学級数	29	32	35	38	40	30	30	29	28	26
けやき分校	H27	H28	H29	H30	R 元	R2	R3	R4	R5	R6
児童数	—	—	—	—	—	409	463	518	529	505
学級数	—	—	—	—	—	12	13	14	14	14
市場小+けやき分	H27	H28	H29	H30	R 元	R2	R3	R4	R5	R6
児童数	952	1,030	1,161	1,307	1,383	1,478	1,527	1,512	1,460	1,350
学級数	29	32	35	38	40	42	43	43	42	40

(3)学校の運営等

通常の学校の分校とは異なり、市場小学校本校を1～4年生、分校を5～6年生が使用という形で運用しています。

本校・分校と離れていることで、全校行事や集会の実施方法、職員会議の開催方法などで課題がありましたが、運動会などの学校行事を午前・午後に分けて本校で実施する分散開催や、朝会・集会、職員会議などにおいてICTを活用し二元中継を行うなど、運営上の工夫により対応しています。

(4)今後の見通し

市場小学校の学区における児童の今後の推計では、今後も適正な学校規模（一般学級 12～24 学級）からは過大に推移しているものの、児童数の増加は令和3年度、4 年度をピークに、R6 年度以降も緩やかな減少傾向となっています。

当初は、令和3年度に一般学級 50 学級という状況を想定していましたが、私立への入学などの影響により、当初の想定ほど児童数が増加しなかったことが原因と推察されます。

一方、近年の個別支援学級の需要の増加傾向で、個別支援学級の必要な教室数の確保について、市場小、けやき分校ともに、分校で新規に整備した教室や分校開校によって空いた教室等で対応することができています。

現時点では、閉校予定の令和 11 年度末以降は、市場小学校のみで児童の受け入れが可能であると推察されますが、引き続き住宅の開発状況や児童数の推移などを注視していきます。

□今後の推計値

新 設 校
閉校予定

市場小	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	一般保有 教室数
児童数	845	769	672	591	545	467	430	
学級数※	26	24	21	19	18	16	15	38CR
けやき分校	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	一般保有 教室数
児童数	505	491	475	413	344	332	308	
学級数※	14	15	15	13	11	11	10	18CR
市場小+けやき分校	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	－
児童数	1,350	1,260	1,147	1,004	889	799	738	－
学級数※	40	39	36	32	29	27	25	－

※R6 年度は 5 月 1 日現在の実数値、R7 以降は R6 年度推計値。

2 施設面

(1) 安全、安定性、快適性

本事業により、増加した児童の受け入れに必要な普通教室、特別教室、校庭、体育館、給食室等を確保しました。

(2) 将来の用途変更への対応

10年間の暫定利用後は原状回復予定のため、解体のしやすい鉄骨造を採用しました。

(3) プール施設等の合理化

近隣で利用できる民間の施設等がなかったため、合理化については実施していません。

(4) コスト縮減の取組＜約－4.4億円＞

今回整備したけやき分校は5、6年生のみの利用であることから、必要な機能のみを整備しています。結果、共用部を最小限とし、コンパクトな平面計画となり、延べ床面積の低減につながりました。また、解体工事での上屋における躯体粉砕などがRC（鉄筋コンクリート）造と比べて少ないこと、解体の期間が短く設定できることなどから、コスト縮減が見込まれる鉄骨造を採用しています。そのため、建物全体の軽量化が図られ、杭基礎の本数がRC造と比べて少ないなどより解体が容易となっています。

今後、躯体資材の売却等も検討し、けやき分校の設置期間終了後のコスト縮減についても図っていきます。

3 防災面

(1) 地域防災計画での位置づけ

けやき分校は地域防災拠点として指定されていません。

(2) 浸水想定状況とその対応

津波到達予測や内水による浸水想定はありません。

高潮による浸水想定0.5～3.0m未満、洪水による浸水想定0.0～0.5m未満の区域です。

実際に台風等の災害が起きた場合に備え、近接の保育園も含めて校舎高層階への避難訓練などを毎年実施しています。

(3) 土砂災害特別警戒区域指定の有無

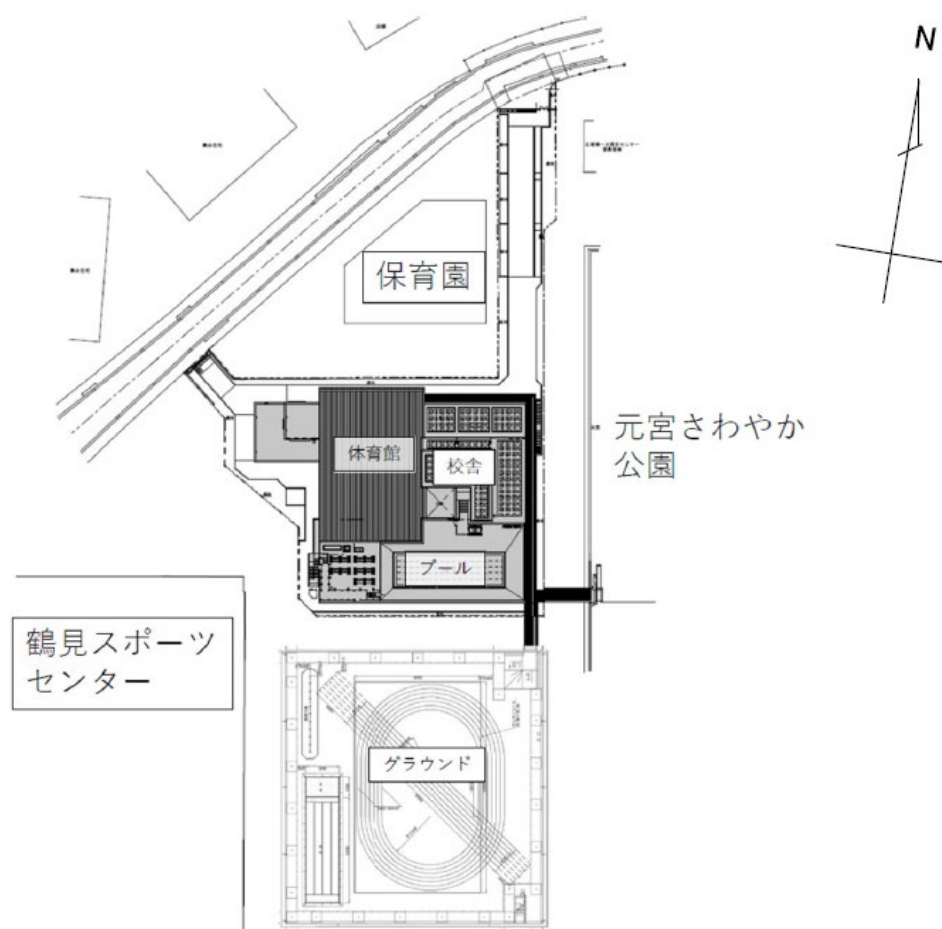
土砂災害特別警戒区域の指定はされていません。

4 地域面

地域交流室やキッズクラブのための部屋を整備しました。

	5 環境への配慮 (1)緑化 10年間の暫定利用であることも考慮しながら、中高木を織り交ぜて緑化しました。校舎屋上には、屋上緑化を整備しました。 (2)建物における環境配慮 竣工時、CASBEE のAランクの取得、躯体資材等におけるリサイクル材の活用、照明のLED化、ソーラー街灯を設置するなど省エネルギー化を進めるとともに屋根及び床断熱の施工を実施しました。 また、CASBEE 評価項目中の「ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)」では、一般的な建物を100%として比較した場合に、けやき分校のライフサイクルCO2は91%に抑えられていると評価されました。 (3)周辺環境に対する効果 省エネ性能を高め地球温暖化防止に努めたほか、砂塵の抑制に配慮しました。 (4)その他 10年間の暫定校であることから、建物計画の工夫や鉄骨造等の採用により、使用材料の低減をはじめ、解体作業時の粉塵や騒音・振動、CO2等の削減に加えて、資材のリサイクル性を高めるなど、総合的な環境負荷の低減を図っています。
その他 (事前評価)	平成27年度第2回公共事業評価委員会において事前評価を実施しました。意見具申なしで、事業実施について「妥当」との評価結果をいただきました。
対応方針 (案)	当初の目的である不足教室の解消は果たせており、また、近年の個別支援学級への需要の増加についても、対応することができています。 また、学校の設置期間も当初の計画通り10年間で完了を見込んでいることから、改善の措置の必要性は特にないと考えます。
今後に向けた 検討項目・ 改善点	施設整備にあたっては、義務教育人口推計の推移を見ながら検討しているところですが、近年、駅前などの利便性の良い土地に限らず、北部、臨海部における工場や事業所の撤退や築年数が経過した団地などの土地利用転換に伴い、一部地域において集中的に人口が増加している状況があります。また、従来子育て世帯が入らないだろうと想定していた間取りに子育て世帯が入ってくるケースが見られ、以前とは需要状況に変化が見られます。 市場小学校では今後児童数が減少し、暫定小学校の期限である令和12年には本校のみで全校児童を受け入れられる見込みとなっておりますが、引き続き住宅の開発状況や児童数の推移などを注視してまいります。
添付資料	別紙1 案内図、位置図、配置図、写真

【配置図】



【外観 南面】



【外観 東面】



【廊下】

